

子育てが
しやすいまち

シリーズ“暮らしつづけたいまち”を目指して

第5次朝霞市総合計画の将来像「私が暮らしつづけたいまち 朝霞」。“暮らしつづけたい”と思えるまちを目指した4つの基本概念（コンセプト）から見た市の取り組みを紹介していきます！今回は「子育てがしやすいまち」の取り組みです。

問／政策企画課 463-3089



～子育て世代にやさしいまちへ～

昨年10月、保健センター内に子育て世代包括支援センターを開設しました。職員手作りの装飾が施された室内は、子どもが遊べるスペースが設置され、落ち着いたBGMにより、優しくリラックスした雰囲気でお迎えしています。

妊婦の皆さんが妊娠届を提出

し母子健康手帳を交付する際には、必ず助産師や保健師がお話を伺います。その機会に妊娠、出産、子育てについて気軽に相談していただくことができ、心配事に対して一緒に考えたり、関係機関を紹介したり、育児サービスの情報が提供など妊婦さんのニーズに沿った形での丁寧な支援ができるようにもなりました。



出産に不安を抱えている方は多くいらっしゃいます。『自分が産み育てることができるのだろうか』、『出産までに何を準備し何に気を付ければいいのか』、『産後の生活』や『2人、3人の子どもを自分は育てられるのか』など悩みはさまざまです。

市では妊娠期から子育て期までの継続した支援を行っています。1人で悩まず、ぜひ、気軽に子育て世代包括支援センターにお立ち寄りください。



問／健康づくり課
451-0155



～子どもの学びの場を支援する～

子どもが「なぜ？」と思うようなことをテーマに小学4年生から6年生までの、違う学校、学年の子どもたちが学習する「子ども大学あさか」。大学のキャンパスなどで、学校や家で教わらないようなことを大学の先生や専門家から学ぶことができます。

今年度全8回の日程のうち、自分を見つめ人生や将来につ

いて考える「生き方学」では、パラリンピック・女子射撃元日本代表田口亜紀選手をお招きしました。どのような状況でも、前向きに、真剣に取り組むことで人生を豊かにすることができるとの話に、子どもたちは真剣な面持ちで話を耳を傾けた後、ビームライフルを体験しました。

子ども大学あさかの学園祭「子どもがつくるまち ミニあさか」の開催に向けては、子ども会議を開いてどのようなまちにするかを皆で話し合い、考えながら準備を進めるなど、子どもにとっての貴重な学びの場となっています。

市と共にこの学びの場を支えているのは、東洋大学やNPO法人アンサーズネットなどです。今後も、子どもたちの知的好奇心を引き出し、育てていくため、地域の機関や団体などと協働し、子どもの学びの場を支援していきます。



問／生涯学習・
スポーツ課
463-2920

